江南市　歴史ガイド短時間コース
（曼陀羅寺コース）

江南市歴史ガイドの会
連絡先：江南市観光協会事務局
（江南市役所商工観光課内）
ＴＥＬ：(0587)54-1111

1．移動ルート／曼陀羅寺正堂を起点として反時計回り　移動総距離：約1km

正堂 ⇒ 曼陀羅堂 ⇒ 大書院 ⇒ 慈光院 ⇒ 霊鷲院 ⇒ 光明院 ⇒ 寛立院 ⇒ 唐門 ⇒ 常照院 ⇒ 地蔵堂 ⇒ 曼陀羅寺公園 ⇒ 本誓院 ⇒ 世尊院 ⇒ 修造院

正堂
総桧皮葺の国指定重要文化財。
現在の正堂は、阿波の国守護蜂須賀小六家政公が幼少時代に本曼陀羅寺の塔頭の一つである本誓院で学問を習い、その報謝の為に寛永9年（1632）に造営寄進された建物で、南北朝前期平安京の紫宸殿に擬して建てられています。

曼陀羅堂
曼陀羅寺の由緒を物語る宝物として中将姫が蓮糸で織り現わされたと伝えられている曼荼羅が収納されています。
拝観期間:藤まつり期間中のみ

胎内仏
曼荼羅の脇侍仏の観音・勢至の2菩薩を修理に出した結果、それぞれの菩薩像(鞘仏)から胎内仏が発見されました。その経緯は定かではありませんが、2像は14世紀中頃のものと推定されています。
拝観期間:藤まつり期間中の4/29～5/5のみ

大書院
国指定重要文化財となった大書院は、文禄元年（1592）建立、南北朝の香りの 書院造りの代表的な建物です。創建時は、桧皮葺でしたが、その後浅瓦葺、銅葺に 変わりました。関ヶ原の前哨戦として岐阜城攻略に際し、東軍の諸将が軍議を凝らした場所として知られています。

庭園(二河白道　にがびゃくどう)
老朽化した方丈・廊下・庫裏を取り壊し、新たに庫裏・茶室・方丈を建築した際、昭和62年（1967)完成しました。
面積約(1,500㎡)の樹林や竹林を背景にした『二河白道』を表現する枯山水、西方の古樹彼岸桜は「弥陀桜」と呼ばれています。樹齢は約300年。

慈光院（塔頭）
本尊は木造釈迦如来立像で　作者が伝毘首羯磨といわれ製作年は不詳です。県文化財指定を受けています。
その他　紙本著色文殊菩薩、紙本著色仏涅槃図は市文化財の指定になっています。
別名　赤門寺。

霊鷲院（塔頭）
境内一円が庭園を成し、池を巡らして弁天島があり、橋を渡ると重軽地蔵尊、その前に後南朝の祖信雅王の供養塔が建てられています。本堂前に「影彫観経曼陀羅」が安置されており、これは中国の影彫手法で、世界でも類を見ない石に彫られた阿弥陀如来の西方浄土を表したものです。

光明院（塔頭）
門内の庭園は、昭和50年の浄土開宗800年記念事業として改修されたもので、新たに水琴窟が設けられました。

裏面へ